

## 令和7年度 第1回山形沿岸海岸保全基本計画検討委員会での主な意見

- 将来の波の打ち上げ高さの検討結果を踏まえた、海岸保全施設整備の必要な箇所の抽出として、背後地の利用状況を考慮した考え方は合理的な判断と言える。
- 将来の波の打ち上げ高さの検討結果が、現況の施設や背後地盤の高さを超えない箇所においても、現状でも超えるリスクがあることを住民や開発者に理解していただくよう情報を発信していくことが重要ではないか。
- 漁業者のほとんどは沿岸に住んでおり、冬季の風浪に悩まされている。孫子の代まで安心して住めるような保全をしていただきたい。
- 消波ブロックを積むと、波のエネルギーが減少して、結果として後背地に砂浜ができやすくなり、これによって飛砂が発生するという現象が発生する場合がある。対策により、良い点、悪い点があるため、バランスが重要であり、対策を進めるにあたっては、地域住民と海岸管理者との調整が大切ではないか。
- 資料5-1のP30にまちづくり関係者との連携に関する記述が追加されたが、内容が重複しているため、記載内容を整理したほうが良い。
- 砂浜のクリーン作戦や、造形活動を通し、自分の故郷を愛することに繋がる活動をしている。こうした活動をこれからも継続していくためにも、砂浜の状況を、モニタリング等により把握していただきたい。
- 近年は、若い年代で海離れが進んでいる。活用という意味では、庄内浜を今後どのように残していくのか、ということも大事な視点になるのではないか。
- 安全・安心と利活用のバランスは非常に難しい課題であるが、関係者との調整・連携が重要となるのではないか。
- 近年、災害が激甚化する中、国土強靱化の次期計画の取組み等も検討されているが、山形県沿岸においても、防災減災、災害対策をしっかりと進めていただきたい。